



## ret - rz

---

- [retries](#) (3 ページ)
- [retry-count](#) (5 ページ)
- [retry-interval](#) (8 ページ)
- [reval-period](#) (10 ページ)
- [revert webvpn all](#) (12 ページ)
- [revert webvpn AnyConnect-customization](#) (13 ページ)
- [revert webvpn customization](#) (15 ページ)
- [revert webvpn plug-in protocol](#) (17 ページ)
- [revert webvpn translation-table](#) (19 ページ)
- [revert webvpn url-list](#) (21 ページ)
- [revert webvpn webcontent](#) (23 ページ)
- [revocation-check](#) (24 ページ)
- [rewrite \(廃止\)](#) (27 ページ)
- [re-xauth](#) (29 ページ)
- [rip authentication mode](#) (31 ページ)
- [rip authentication key](#) (33 ページ)
- [rip receive version](#) (35 ページ)
- [rip send version](#) (37 ページ)
- [rmdir](#) (39 ページ)
- [route](#) (41 ページ)
- [route-map](#) (45 ページ)
- [route priority high](#) (48 ページ)
- [router-alert](#) (49 ページ)
- [router bgp](#) (51 ページ)
- [router eigrp](#) (53 ページ)
- [router-id](#) (56 ページ)
- [router-id cluster-pool](#) (58 ページ)
- [router isis](#) (60 ページ)
- [router ospf](#) (61 ページ)
- [router rip](#) (64 ページ)

- [rtp-conformance](#) (67 ページ)
- [rtp-min-port rtp-max-port](#) (廃止予定) (69 ページ)

# retries

ASA が応答を受信しないときに、DNS サーバーのリストに再試行する回数を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dns retries** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**retries number**  
**no retries [ number ]**

## 構文の説明

*number* 再試行回数を 0 ～ 10 の範囲で指定します。デフォルトは 2 です。

## コマンド デフォルト

デフォルトの再試行回数は 2 回です。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

7.1(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**name-server** コマンドを使用して DNS サーバーを追加します。

このコマンドは **dns name-server** コマンドの代わりに使用します。

## 例

次に、再試行回数を 0 回に設定する例を示します。ASA は各サーバーを 1 回だけ試行します。

```
ciscoasa(config)# dns server-group dnsgroup1
ciscoasa(config-dns-server-group)# retries 0
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure dns</b>	DNS コマンドをすべて削除します。
<b>dns server-group</b>	DNS サーバー グループ モードを開始します。

コマンド	説明
<b>show running-config dns server-group</b>	既存の DNS サーバー グループ コンフィギュレーションのうちの一つまたはすべてを表示します。

# retry-count

クラウド Web セキュリティ プロキシ サーバーが到達不能であると見なす、連続したポーリングの失敗回数を設定するには、scansafe 汎用オプション コンフィギュレーション モードで **retry-count** コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**retry-count** *value*  
**no retry-count** [ *value* ]

## 構文の説明

*value* 再試行回数の値 (2～100) を入力します。デフォルトは5分です。

## コマンドデフォルト

デフォルト値は5です。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
scansafe 汎用オプション コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

9.0(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Cisco Cloud Web Security サービスに登録すると、プライマリ Cloud Web Security プロキシ サーバーとバックアップ プロキシ サーバーが割り当てられます。

クライアントがプライマリ サーバーに到達できない場合、ASA は可用性を判定するためにタワーのポーリングを開始します。(クライアントのアクティビティが存在しない場合、ASA は15分ごとにポーリングします)。設定された回数だけ再試行してもプロキシサーバーが使用できない場合(デフォルトは5回。この設定は設定可能)、サーバーは到達不能として宣言され、バックアップ プロキシ サーバーがアクティブになります。

クライアントまたは ASA が、再試行回数に到達する前に少なくとも2回連続してサーバーに到達できる場合、ポーリングは停止し、タワーはアクセス可能であると判定されます。

再試行回数は、アプリケーション健全性チェックにも適用されます(イネーブルの場合)。

バックアップサーバーへのフェールオーバー後、ASA はプライマリ サーバーをポーリングし続けます。プライマリ サーバーが到達可能になると、ASA はプライマリ サーバーの使用に戻ります。

## 例

次に、再試行回数の値を 7 に設定する例を示します。

```
scansafe general-options
server primary ip 10.24.0.62 port 8080
server backup ip 10.10.0.7 port 8080
health-check application
retry-count 7
license 366C1D3F5CE67D33D3E9ACEC265261E5
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>class-map type inspect scansafe</b>	ホワイトリストに記載されたユーザーとグループのインスペクションクラス マップを作成します。
<b>default user group</b>	ASA に入ってくるユーザーのアイデンティティを ASA が判別できない場合のデフォルトのユーザー名やグループを指定します。
<b>health-check application</b>	フェールオーバーのための、クラウド Web セキュリティのアプリケーション健全性チェックを有効にします。
<b>http[s]</b> (パラメータ)	インスペクション ポリシー マップのサービス タイプ (HTTP または HTTPS) を指定します。
<b>inspect scansafe</b>	このクラスのトラフィックに対するクラウド Web セキュリティ インスペクションをイネーブルにします。
<b>license</b>	要求の送信元の組織を示すため、ASA がクラウド Web セキュリティ プロキシ サーバーに送信する認証キーを設定します。
<b>match user group</b>	ユーザーまたはグループをホワイトリストと照合します。
<b>policy-map type inspect scansafe</b>	インスペクション ポリシー マップを作成すると、ルールのために必要なパラメータを設定し、任意でホワイトリストを識別できます。
<b>retry-count</b>	再試行回数値を入力します。この値は、可用性をチェックするために、プロキシサーバーをポーリングする前に待機する時間です。
<b>scansafe</b>	マルチ コンテキスト モードでは、コンテキストごとにクラウド Web セキュリティを許可します。
<b>scansafe general-options</b>	汎用クラウド Web セキュリティ サーバー オプションを設定します。

コマンド	説明
<b>server {primary   backup}</b>	プライマリまたはバックアップのクラウド Web セキュリティプロキシサーバーの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを設定します。
<b>show conn scansafe</b>	大文字の Z フラグに示されたようにすべてのクラウド Web セキュリティ接続を表示します。
<b>show scansafe server</b>	サーバーが現在のアクティブサーバー、バックアップサーバー、または到達不能のいずれであるか、サーバーのステータスを表示します。
<b>show scansafe statistics</b>	合計と現在の http 接続を表示します。
<b>user-identity monitor</b>	AD エージェントから指定したユーザーまたはグループ情報をダウンロードします。
<b>whitelist</b>	トラフィックのクラスでホワイトリストアクションを実行します。

# retry-interval

**aaa-server host** コマンドで事前に指定された特定の AAA サーバーに対する再試行の時間間隔を設定するには、AAA サーバー ホストモードで **retry-interval** コマンドを使用します。再試行間隔をデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**retry-interval seconds**  
**no retry-interval**

## 構文の説明

*seconds* 要求の再試行間隔（1～10秒）を指定します。これは、接続要求を再試行するまでに ASA が待機する時間です。

## コマンド デフォルト

デフォルトの再試行間隔は 10 秒です。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
AAA サーバー ホスト	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

7.0(1) このコマンドは CLI ガイドラインに沿うように変更されました。

## 使用上のガイドライン

接続試行間に ASA が待機する秒数を指定またはリセットするには、**retry-interval** コマンドを使用します。ASA が AAA サーバーへの接続を試行する時間の長さを指定するには、**timeout** コマンドを使用します。

このコマンドは、RSA SecurID REST API サーバグループ内のサーバーには適用されません。



- (注) RADIUS プロトコルの場合、サーバーが ICMP ポート到達不能メッセージで応答すると、再試行間隔の設定が無視され、AAA サーバーはただちに障害状態になります。このサーバーが AAA グループ内の唯一のサーバーである場合は、サーバーが再アクティブ化され、別の要求がサーバーに送信されます。これは意図された動作です。

## 例

次に、コンテキストでの **retry-interval** コマンドの例を示します。



```

ciscoasa
(config)# aaa-server svrgrp1 protocol radius
ciscoasa
(config-aaa-server-group)# aaa-server svrgrp1 host 1.2.3.4
ciscoasa
(config-aaa-server-host)# timeout 7
ciscoasa
(config-aaa-server-host)# retry-interval 9

```

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>aaa-server host</b>	AAA サーバー ホスト コンフィギュレーション モードを開始して、ホスト固有の AAA サーバーパラメータを設定できるようにします。
<b>clear configure aaa-server</b>	すべての AAA コマンドステートメントをコンフィギュレーションから削除します。
<b>show running-config aaa-server</b>	すべての AAA サーバー、特定のサーバー グループ、特定のグループ内の特定のサーバー、または特定のプロトコルの AAA サーバー統計情報を表示します。
<b>timeout</b>	ASA が AAA サーバーへの接続を試行する時間の長さを指定します。

# reval-period

NAC フレームワークセッションにおける成功した各ポスチャ検証間の間隔を指定するには、`nac` ポリシー `nac` フレームワーク コンフィギュレーション モードで **reval-period** コマンドを使用します。このコマンドを NAC フレームワークポリシーから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**reval-period** *seconds*  
**no reval-period** [ *seconds* ]

## 構文の説明

*seconds* 正常に完了した各ポスチャ確認の間隔の秒数。指定できる範囲は300～86400です。

## コマンドデフォルト

デフォルト値は 36000 です。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
<code>nac</code> ポリシー <code>nac</code> フレームワーク コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
 ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

7.3(0) コマンド名から「`nac-`」が削除されました。コマンドが、グループポリシー コンフィギュレーションモードから `nac` ポリシー `nac` フレームワーク コンフィギュレーションモードに移動されました。

## 使用上のガイドライン

ASA では、ポスチャ検証に成功するたびに、再検証タイマーが開始されます。このタイマーが期限切れになると、次の無条件のポスチャ検証がトリガーされます。ASA では、再検証中はポスチャ検証が維持されます。ポスチャ検証または再検証中にアクセス コントロール サーバーが使用できない場合、デフォルトのグループポリシーが有効になります。

## 例

次に、再検証タイマーを 86400 秒に変更する例を示します。

```
ciscoasa(config-nac-policy-nac-framework)# reval-period 86400
ciscoasa(config-nac-policy-nac-framework)
```

次に、NAC ポリシーから再検証タイマーを削除する例を示します。

```
ciscoasa(config-nac-policy-nac-framework)# no reval-period
ciscoasa(config-nac-policy-nac-framework)
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
eou timeout	NAC フレームワーク コンフィギュレーションで EAP over UDP メッセージをリモート ホストに送信した後に待機する秒数を変更します。
sq-period	NAC フレームワーク セッションで正常に完了したポスチャ確認と、ホスト ポスチャの変化を調べる次のクエリーとの間隔を指定します。
nac-policy	Cisco NAC ポリシーを作成してアクセスし、そのタイプを指定します。
debug nac	NAC フレームワーク イベントのロギングをイネーブルにします。
eou revalidate	1つ以上の NAC フレームワーク セッションのポスチャ再確認をただちに強制します。

# revert webvpn all

ASA のフラッシュメモリから、すべての Web 関連データ（カスタマイゼーション、プラグイン、変換テーブル、URL リスト、および Web コンテンツ）を削除するには、特権 EXEC モードで **revert webvpn all** コマンドを入力します。

## revert webvpn all

**コマンド デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード** 次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC モード	• 対応	—	• 対応	—	—

**コマンド履歴** リリー 変更内容  
ス

8.0(2) このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** ASA のフラッシュメモリから Web 関連のすべての情報（カスタマイゼーション、プラグイン、変換テーブル、URL リスト、および Web コンテンツ）を無効にし、削除するには、**revert webvpn all** コマンドを使用します。すべての Web 関連データを削除すると、デフォルト設定が使用可能な場合にはデフォルト設定に戻ります。

**例** 次に、ASA からすべての Web 関連コンフィギュレーション データを削除するコマンドを示します。

```
ciscoasa# revert webvpn all
ciscoasa
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show import webvpn (option)</b>	現在、ASA のフラッシュメモリに存在する、インポートされたさまざまな WebVPN データおよびプラグインを表示します。

# revert webvpn AnyConnect-customization

Cisco Secure Client GUI のカスタマイズに使用されているファイルを ASA から削除するには、特権 EXEC モードで **revert webvpn AnyConnect-customization** コマンドを使用します。

**revert webvpn AnyConnect-customization type type platform platform name name**

## 構文の説明

**type** カスタマイズ ファイルのタイプ。

- バイナリ：AnyConnect GUI を置き換える実行可能ファイル。
- resource：企業ロゴなどのリソース ファイル。
- トランスフォーム：MSI をカスタマイズするトランスフォーム。

**platform** セキュアクライアント を実行しているエンドポイントデバイスの OS。linux、mac-intel、mac-powerpc、win、または win-mobile のいずれかを指定します。

**name** 削除するファイルを識別する名前（最大 64 文字）。

## コマンドデフォルト

このコマンドにデフォルトの動作はありません。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容

8.2(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

セキュアクライアント GUI のカスタマイズ手順の詳細については、AnyConnect VPN クライアント管理者ガイド [英語] を参照してください。

## 例

次に、AnyConnect GUI をカスタマイズするために以前にリソースファイルとしてインポートした Cisco ロゴを削除する例を示します。

```
ciscoasa# revert webvpn AnyConnect-customization type resource platform win name cisco_logo.gif
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>customization</b>	トンネルグループ、グループ、またはユーザーに対して使用するカスタマイゼーションオブジェクトを指定します。
	<b>export customization</b>	カスタマイゼーションオブジェクトをエクスポートします。
	<b>import customization</b>	カスタマイゼーションオブジェクトをインストールします。
	<b>revert webvpn all</b>	すべての webvpn 関連データ（カスタマイゼーション、プラグイン、変換テーブル、URL リスト、および Web コンテンツ）を削除します。
	<b>show webvpn customization</b>	ASA のフラッシュデバイスに存在する現在のカスタマイゼーションオブジェクトを表示します。

# revert webvpn customization

ASAのキャッシュメモリからカスタマイゼーションオブジェクトを削除するには、特権EXECモードで **revert webvpn customization** コマンドを入力します。

**revert webvpn customization** *name*

## 構文の説明

*name* 削除するカスタマイゼーションオブジェクトの名前を指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC モード	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

8.0(2) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

指定したカスタマイゼーションのクライアントレス SSL VPN サポートを削除し、ASAのキャッシュメモリからそのカスタマイゼーションを削除するには、**revert webvpn customization** コマンドを使用します。カスタマイゼーションオブジェクトを削除すると、デフォルト設定が使用可能な場合にはデフォルト設定に戻ります。カスタマイゼーションオブジェクトには、特定の指定されたポータル ページのコンフィギュレーション パラメータが含まれています。

バージョン 8.0 ソフトウェアでは、カスタマイゼーションの設定機能が拡張されており、新しいプロセスは以前のバージョンと互換性がありません。セキュリティ アプライアンスでは、8.0 ソフトウェアへのアップグレード時に、古い設定を使用して新しいカスタマイゼーションオブジェクトを生成することによって、現在の設定が保持されます。このプロセスは1回のみ実行されます。また、古い値は新しい値の一部を構成するサブセットに過ぎないため、このプロセスは古い形式から新しい形式への単なる変換ではありません。



- (注) バージョン 7.2 のポータル カスタマイゼーションおよび URL リストは、バージョン 8.0 へのアップグレード前にバージョン 7.2(x) のコンフィギュレーション ファイルで適切なインターフェイスにおいてクライアントレス SSL VPN (WebVPN) がイネーブルになっている場合にのみ、ベータ 8.0 コンフィギュレーションで動作します。

## 例

次に、GroupB という名前のカスタマイゼーション オブジェクトを削除するコマンドを示します。

```
ciscoasa# revert webvpn customization groupb
ciscoasa
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>customization</b>	トンネルグループ、グループ、またはユーザーに対して使用するカスタマイゼーション オブジェクトを指定します。
<b>export customization</b>	カスタマイゼーション オブジェクトをエクスポートします。
<b>import customization</b>	カスタマイゼーション オブジェクトをインストールします。
<b>revert webvpn all</b>	すべての webvpn 関連データ (カスタマイゼーション、プラグイン、変換テーブル、URL リスト、および Web コンテンツ) を削除します。
<b>show webvpn customization</b>	ASA のフラッシュデバイスに存在する現在のカスタマイゼーション オブジェクトを表示します。



# revert webvpn plug-in protocol

ASA のフラッシュデバイスからプラグインを削除するには、特権 EXEC モードで **revert webvpn plug-in protocol** コマンドを入力します。

**revert plug-in protocol** *protocol*

## 構文の説明

*protocol* 次のいずれかのストリングを入力します。

- rdp

Remote Desktop Protocol プラグインにより、リモート ユーザーは Microsoft Terminal Services が実行するコンピュータに接続できます。

- ssh

セキュアシェルプラグインにより、リモートユーザーがリモートコンピュータへのセキュアチャンネルを確立したり、リモートユーザーが Telnet を使用してリモートコンピュータに接続したりできます。

- vnc

Virtual Network Computing プラグインを使用すると、リモートユーザーはリモートデスクトップ共有をオンにしたコンピュータを、モニタ、キーボード、およびマウスを使用して表示および制御できます。

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC モード	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

8.0(2) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

指定した Java ベースのクライアントアプリケーションのクライアントレス SSL VPN サポートを無効にして削除し、ASA のフラッシュドライブからも削除するには、**revert webvpn plug-in protocol** コマンドを使用します。

## 例

次に、RDP のサポートを削除するコマンドを示します。

```
ciscoasa# revert webvpn plug-in protocol rdp
ciscoasa
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>import webvpn plug-in protocol</b>	指定したプラグインを URL から ASA のフラッシュデバイスにコピーします。このコマンドを発行すると、クライアントレス SSL VPN での今後のセッションにおいて、Java ベースのクライアントアプリケーションの使用が自動的にサポートされます。
<b>show import webvpn plug-in</b>	ASA のフラッシュデバイスに存在するプラグインのリストを示します。

# revert webvpn translation-table

ASA のフラッシュメモリから変換テーブルを削除するには、特権 EXEC モードで **revert webvpn translation-table** コマンドを入力します。

**revert webvpn translation-table** *translationdomain* **language** *language*

## 構文の説明

*translationdomain* 使用可能な変換ドメインは、次のとおりです。

- AnyConnect
- PortForwarder
- banners
- csd
- customization
- url-list
- webvpn
- 使用可能な場合、Citrix、RPC、Telnet-SSH、および VNC のプラグインからのメッセージの変換。

**language** *language* 削除する言語を指定します。2文字のコードを使用して言語を指定します。? と入力して、インストールされている言語を確認します。各ドメインにインストールされている言語を表示するには、**show import webvpn translation-table** コマンドを使用します。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC モード	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

8.0(2) このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** インポートされた変換テーブルを無効にして削除し、フラッシュメモリから削除するには、**revert webvpn translation-table** コマンドを使用します。変換テーブルを削除すると、デフォルト設定が使用可能な場合にはデフォルト設定に戻ります。

**例** 次に、フランス語の AnyConnect 変換テーブルを削除するコマンドを示します。

```
ciscoasa# revert webvpn translation-table anyconnect language fr
ciscoasa#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>revert webvpn all</b>	WebVPN 関連のすべてのデータ（カスタマイゼーション、プラグイン、変換テーブル、URL リスト、および Web コンテンツ）を削除します。
<b>show import webvpn translation-table</b>	フラッシュ デバイスに存在する現在の変換テーブルを表示します。

# revert webvpn url-list

ASA から URL リストを削除するには、特権 EXEC モードで **revert webvpn url-list** コマンドを入力します。

**revert webvpn url-list template name**

## 構文の説明

**template name** URL リストの名前を指定します。

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC モード	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
8.0(2) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ASA のフラッシュドライブにある現在の URL リストを無効にし、削除するには、**revert webvpn url-list** コマンドを使用します。URL リストを削除すると、デフォルト設定が使用可能な場合にはデフォルト設定に戻ります。

**revert webvpn url-list** コマンドで使用される **template** 引数では、設定済みの URL リストの名前を指定します。このようなリストを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **url-list** コマンドを使用します。

## 例

次に、servers2 という URL リストを削除するコマンドを示します。

```
ciscoasa# revert webvpn url-list servers2
ciscoasa
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>revert webvpn all</b>	すべての webvpn 関連データ（カスタマイゼーション、プラグイン、変換テーブル、URL リスト、および Web コンテンツ）を削除します。
<b>show running-configuration url-list</b>	現在の設定済み URL リストコマンドのセットを表示します。
<b>url-list (WebVPN mode)</b>	特定のユーザーまたはグループ ポリシーに、WebVPN サーバーおよび URL のリストを適用します。

# revert webvpn webcontent

ASA のフラッシュメモリ内の場所から指定した Web オブジェクトを削除するには、特権 EXEC モードで **revert webvpn webcontent** コマンドを入力します。

**revert webvpn webcontent filename**

## 構文の説明

*filename* 削除する Web コンテンツを含むフラッシュメモリファイルの名前を指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC モード	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
8.0(2) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Web コンテンツを含むファイルを無効にして削除し、ASA のフラッシュメモリから削除するには、**revert webvpn content** コマンドを使用します。Web コンテンツを削除すると、デフォルト設定が使用可能な場合にはデフォルト設定に戻ります。

## 例

次に、ASA のフラッシュメモリから ABCLogo という Web コンテンツファイルを削除するコマンドを示します。

```
ciscoasa# revert webvpn webcontent abclogo
ciscoasa
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>revert webvpn all</b>	すべての webvpn 関連データ（カスタマイゼーション、プラグイン、変換テーブル、URL リスト、および Web コンテンツ）を削除します。
<b>show webvpn webcontent</b>	ASA のフラッシュメモリに現存する Web コンテンツを表示します。

# revocation-check

トラストプールポリシーについて失効チェックが必要であるかどうかを定義するには、クリプト CA トラストプールコンフィギュレーションモードで **revocation-check** コマンドを使用します。デフォルトの失効チェック方法 (*none*) に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
revocation-check {[ crl ][ ocspl ][ none ]}
no revocation-check {[ crl ][ ocspl ][ none ]}
```

## 構文の説明

**cr1** ASA では、失効チェック方法として CRL を使用する必要があることを指定します。

**none** ASA では、すべての方法でエラーが返された場合でも証明書ステータスを有効であると解釈する必要があることを指定します。

**ocspl** ASA では、失効チェック方法として OCSP を使用する必要があることを指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルト値は *none* です。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
クリプト CA トラストプール コンフィギュレーション モード	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

9.0(1) このコマンドが追加されました。

9.5(1) OCSP URL を使用した失効チェックのインターフェイスキーワードが追加されました。

9.13(1) CRL または OCSP サーバーとの接続問題に起因する失効チェックをバイパスするオプションが削除されました。

9.15(1) 9.13(1) で削除された、失効チェックをバイパスするオプションが復元されました。



**使用上のガイドライン** OCSP 応答の署名者は、通常、OCSP サーバー（レスポнда）証明書です。デバイスは、応答を受信した後、レスポнда証明書の検証を試みます。

通常、CA は、セキュリティが侵害される危険性を最小限に抑えるために、OCSP レスポнда証明書のライフタイムを比較的短い期間に設定します。CA は、失効ステータスチェックが必要ないことを示す `ocsp-no-check` 拡張をレスポнда証明書に組み込みます。ただし、この拡張が存在しない場合、デバイスは、この **revocation-check** コマンドでトラストポイントに設定した失効方法を使用して、証明書失効ステータスのチェックを試みます。`none` オプションを設定してステータスチェックを無視していない限り、OCSP 失効チェックの失敗後、OCSP レスポнда証明書に `ocsp-no-check` 拡張がない場合、OCSP レスポнда証明書は検証可能である必要があります。



(注) オプションの引数を指定する場合、順序は問いませんが、`none` キーワードは必ず最後にする必要があります。

ASA では、すべての方法が設定した順序で試行されます。2 番目と 3 番目の方法は、前の方法でエラー（サーバーのダウンなど）が返された場合にのみ、ステータスを失効と見なせずに試行されます。

クライアント証明書検証トラストポイントで、失効チェック方法を設定できます。また、レスポнда証明書検証トラストポイントでは、失効チェックなし (**revocation-check none**) を設定できます。構成例については、**match certificate** コマンドを参照してください。

ASA で **revocation-check crl none** コマンドを設定している場合、クライアントが ASA に接続すると、CRL がまだキャッシュされていないためダウンロードが自動的に開始され、証明書が検証されてから CRL のダウンロードが終了します。この場合、CRL がキャッシュされていないと、CRL のダウンロード前に ASA で証明書が検証されます。

ASA 9.13(1) で削除された、失効チェックをバイパスするための次のオプションは、後に復元されました。

オプション	Action
<code>revocation-check crl none</code>	CRL にアクセスできない場合は、失効チェックをバイパスします
<code>revocation-check ocsp none</code>	OCSP チェックを実行できない場合は、失効チェックをバイパスします
<code>revocation-check crl ocsp none</code>	CRL にアクセスできない場合は、OCSP を試してください。 OCSP を実行できない場合は、失効チェックをバイパスします
<code>revocation-check ocsp crl none</code>	OCSP を実行できない場合は、CRL を試し、それ以外の場合は失効チェックをバイパスします

失効チェックに OCSP URL を割り当てる場合、OCSP が到達可能な管理インターフェイスを指定できます。このインターフェイス値によってルーティングの判断が決まります。

## 例

```

ciscoasa(config-ca-trustpoint)# revocation-check ?
crypto-ca-trustpoint mode commands/options:
  crl    Revocation check by CRL
  none   Ignore revocation check
  ocspl  Revocation check by OCSP
(config-ca-trustpoint)# ocspl
ocspl interface mgmt url http://1.1.1.1:8888

```

ここで、**mgmt** は管理インターフェイスの名前です。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>crypto ca trustpool policy</b>	トラストプールポリシーを定義するコマンドを提供するサブモードを開始します。
match certificate allow expired-certificate	特定の証明書に対する有効期限チェックを管理者が免除できるようにします。
match certificate skip revocation-check	特定の証明書に対する失効チェックを管理者が免除できるようにします。

## rewrite (廃止)

WebVPN接続上で、特定のアプリケーションまたはトラフィックタイプのコンテンツのリライトを無効にするには、`webvpn` モードで **rewrite** コマンドを使用します。リライトルールを削除するには、ルールを一意に識別するルール番号を指定して、このコマンドの **no** 形式を使用します。すべてのリライトルールを削除するには、このコマンドの **no** 形式をルール番号を指定せずに使用します。

ASA のデフォルトでは、すべての WebVPN トラフィックがリライトまたは変換されます。

**rewrite order** *integer* { **enable** | **disable** } **resource-mask** *string* [ **name** *resource name* ]

**no rewrite order** *integer* { **enable** | **disable** } **resource-mask** *string* [ **name** *resource name* ]

### 構文の説明

<b>disable</b>	このリライトルールを、指定したトラフィックに対するコンテンツのリライトをディセーブルにするルールとして定義します。コンテンツのリライトをディセーブルにすると、トラフィックはセキュリティ アプライアンスを通過しません。
イネーブル化	このリライトルールを、指定したトラフィックに対するコンテンツのリライトをイネーブルにするルールとして定義します。
<i>integer</i>	設定されているすべてのルール内でのルールの順序を設定します。指定できる範囲は 1 ~ 65534 です。
<i>name</i>	(任意) ルールを適用するアプリケーションまたはリソースの名前を指定します。
<b>order</b>	ASA のルール適用順序を定義します。
<b>resource-mask</b>	ルールのアプリケーションまたはリソースを指定します。
<i>resource name</i>	(任意) ルールを適用するアプリケーションまたはリソースを指定します。最大 128 バイトです。
<i>string</i>	照合するアプリケーションまたはリソースの名前を指定します。正規表現を使用できます。次のワイルドカードを使用できます。  照合対象として正規表現を含むことができるパターンを指定します。次のワイルドカードを使用できます。  * : 完全一致。このワイルドカードはこれだけでは使用できません。英数字の文字列とともに使用する必要があります。  ? : 少なくとも 1 文字を一致させます。  [!seq] : 順序に関係なく、任意の文字を含みます。  [seq] : 順序も含め、任意の文字を含みます。  最大 300 バイトです。

**コマンド デフォルト** デフォルトでは、すべてをリライトします。

**コマンド モード** 次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
webvpn コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

#### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.1(1) このコマンドが追加されました。

9.17(1) WebVPNのサポートが終了したため、このコマンドは廃止されました。

#### 使用上のガイドライン

ASA では、WebVPN 接続経路で正しくレンダリングされるように、アプリケーションのコンテンツがリライトされます。外部パブリック Web サイトなどの一部のアプリケーションでは、この処理は必要ありません。これらのアプリケーションでは、コンテンツリライトをオフにできます。

`disable` オプションを指定して `rewrite` コマンドを使用して、コンテンツリライトを選択的にオフにし、ユーザーが ASA を経由せずに直接特定のサイトを参照できるようにします。これは、IPsec VPN 接続におけるスプリット トンネリングに似ています。

このコマンドは複数回使用できます。ASA では、順序番号に従ってリライトルールが検索され、一致する最初のルールが適用されるため、エントリの設定順序は重要です。

#### 例

次に、`cisco.com` ドメインの URL に対するコンテンツ リライトをオフにする順序番号 1 のリライトルールを設定する例を示します。

```
ciscoasa
(config-webvpn)#
rewrite order 2 disable resource-mask *cisco.com/*
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<code>apcf</code>	特定のアプリケーションに使用する非標準のルールを指定します。
<code>proxy-bypass</code>	特定のアプリケーションに対してコンテンツの最低限の書き換えを設定します。

## re-xauth

IPSec ユーザーに対して IKE キー再生成時に再認証を要求するには、グループ ポリシー コンフィギュレーションモードで **re-xauth enable** コマンドを発行します。IKE キー再生成時にユーザーの再認証を無効にするには、**re-xauth disable** コマンドを使用します。

実行コンフィギュレーションから re-xauth 属性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。これにより、他のグループ ポリシーから IKE キー再生成時の再認証についての値が継承されます。

```
re-xauth { enable [ extended ] | disable }
no re-xauth
```

### 構文の説明

**disable** IKE キー再生成時の再認証をディセーブルにします。

**enable** IKE キー再生成時の再認証をイネーブルにします。

**extended** 認証クレデンシャルを再入力可能な時間を、設定されている SA の最大ライフタイムまで延長します。

### コマンドデフォルト

IKE キー再生成時の再認証はディセーブルです。

### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グループ ポリシー コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

### コマンド履歴

リリース 変更内容

7.0(1) このコマンドが追加されました。

8.0.4 **extended** キーワードが追加されました。

### 使用上のガイドライン

IKE キー再生成時の再認証は、IPsec 接続に対してのみ適用されます。

IKE キー再生成時の再認証を有効にすると、ASA では、最初のフェーズ 1 IKE ネゴシエーション時にユーザーはユーザー名とパスワードの入力を求められ、その後 IKE キー再生成が実行されるたびにユーザー認証を求められます。再認証によって、セキュリティが強化されます。

ユーザーは、30 秒以内にクレデンシャルを入力する必要があります。また、約 2 分間で SA が期限切れになり、トンネルが終了するまでの間に、3 回まで入力を再試行できます。ユーザーに対して、設定されている SA の最大ライフタイムまで認証ログイン情報の再入力を許可するには、**extended** キーワードを使用します。

設定されているキー再生成間隔を確認するには、モニタリングモードで **show crypto ipsec sa** コマンドを入力して、セキュリティアソシエーションの秒単位のライフタイム、およびデータのキロバイト単位のライフタイムを表示します。



---

(注) 接続の他方の終端にユーザーが存在しない場合、再認証は失敗します。

---

## 例

次に、FirstGroup という名前のグループ ポリシーに対して、キー再生成時の再認証をイネーブルにする例を示します。

```
ciscoasa(config) #group-policy FirstGroup attributes
ciscoasa(config-group-policy) # re-xauth enable
```

## rip authentication mode

RIPバージョン2パケットで使用される認証のタイプを指定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **rip authentication mode** コマンドを使用します。デフォルトの認証方法に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rip authentication mode { text | md5 }**  
**no rip authentication mode**

### 構文の説明

**md5** RIP メッセージ認証に MD5 を使用します。

**text** RIP メッセージ認証にクリアテキストを使用します（非推奨）。

### コマンドデフォルト

デフォルトで、クリアテキスト認証が使用されます。

### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

### コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

RIPバージョン2を指定した場合は、ネイバー認証をイネーブルにし、MD5ベースの暗号化を使用して、RIPアップデートを認証できます。

インターフェイス上の **rip authentication** コマンドを表示するには、**show interface** コマンドを使用します。

### 例

次に、インターフェイス GigabitEthernet0/3 上で設定された RIP 認証の例を示します。

```
ciscoasa(config)# interface Gigabit0/3
ciscoasa(config-if)# rip authentication mode md5
ciscoasa(config-if)# rip authentication key thisismykey key_id 5
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>rip authentication key</b>	RIP バージョン 2 認証をイネーブルにして、認証キーを指定します。
	<b>rip receive version</b>	特定のインターフェイス上でアップデートを受信するときに受け入れる RIP バージョンを指定します。
	<b>rip send version</b>	特定のインターフェイスからアップデートを送信するときに使用する RIP バージョンを指定します。
	<b>show running-config interface</b>	指定したインターフェイスのコンフィギュレーション コマンドを表示します。
	<b>version</b>	ASA でグローバルに使用される RIP のバージョンを指定します。



# rip authentication key

RIPバージョン2パケットの認証を有効にし、認証キーを指定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **rip authentication key** コマンドを使用します。RIPバージョン2認証を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rip authentication key** [ 0|8 ] *string* **key\_id** *id*  
**no rip authentication key**

## 構文の説明

**0** 暗号化されていないパスワードが続くことを指定します。

**8** 暗号化されたパスワードが後に続くことを指定します。

*id* キー ID 値を指定します。有効な値の範囲は 1 ～ 255 です。

**key** 認証キー スtringに使用される共有キーを指定します。このキーには、最大 16 文字を含めることができます。

*string* 暗号化されていない（クリアテキスト）ユーザーパスワードを指定します。

## コマンド デフォルト

RIP 認証はディセーブルです。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
 ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

RIPバージョン2を指定した場合は、ネイバー認証をイネーブルにし、MD5ベースの暗号化を使用して、RIPアップデートを認証できます。ネイバー認証をイネーブルにする場合は、*key* 引数および *key\_id* 引数が、RIPバージョン2更新を提供するネイバーデバイスによって使用されているものと同じである必要があります。*key* は、最大 16 文字のテキスト String です。

インターフェイス上の **rip authentication** コマンドを表示するには、**show interface** コマンドを使用します。

### 例

次に、インターフェイス GigabitEthernet 0/3 上で設定された RIP 認証の例を示します。

```
ciscoasa(config)# interface Gigabit0/3
ciscoasa(config-if)# rip authentication mode md5
ciscoasa(config-if)# rip authentication key 8 yWlvi0qJAnGK5MRWQzrhIohkGP1wKb 5
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>rip authentication mode</b>	RIP バージョン 2 パケットで使用される認証のタイプを指定します。
<b>rip receive version</b>	特定のインターフェイス上でアップデートを受信するときに受け入れる RIP バージョンを指定します。
<b>rip send version</b>	特定のインターフェイスからアップデートを送信するときに使用する RIP バージョンを指定します。
<b>show running-config interface</b>	指定したインターフェイスのコンフィギュレーション コマンドを表示します。
<b>version</b>	ASA でグローバルに使用される RIP のバージョンを指定します。

## rip receive version

インターフェイスで受け入れるRIPのバージョンを指定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで**rip receive version** コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**version** { [ 1 ] [ 2 ] }  
**no version**

### 構文の説明

**1**RIPバージョン1を指定します。

**2**RIPバージョン2を指定します。

### コマンドデフォルト

ASA は RIP バージョン 1 とバージョン 2 のパケットを受け入れます。

### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイスコンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

### コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

グローバル設定をインターフェイスごとに上書きするには、インターフェイスで **rip receive version** コマンドを入力します。

RIPバージョン2を指定した場合は、ネイバー認証をイネーブルにし、MD5ベースの暗号化を使用して、RIPアップデートを認証できます。

### 例

次に、指定したインターフェイス上でRIPバージョン1と2のパケットを受信するように、ASAを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/3
ciscoasa(config-if)# rip send version 1 2
ciscoasa(config-if)# rip receive version 1 2
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>rip send version</b>	特定のインターフェイスからアップデートを送信するときに使用するRIPバージョンを指定します。
<b>router rip</b>	RIP ルーティング プロセスをイネーブルにして、そのプロセスのルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>version</b>	ASA でグローバルに使用される RIP のバージョンを指定します。

# rip send version

インターフェイスでRIPアップデートを送信するために使用されるRIPのバージョンを指定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **rip send version** コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rip send version** { [ 1 ] [ 2 ] }  
**no rip send version**

## 構文の説明

**1**RIPバージョン1を指定します。

**2**RIPバージョン2を指定します。

## コマンドデフォルト

ASA は RIP バージョン 1 パケットを送信します。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

グローバルRIP送信バージョン設定をインターフェイスごとに上書きするには、インターフェイスで **rip send version** コマンドを入力します。

RIPバージョン2を指定した場合は、ネイバー認証をイネーブルにし、MD5ベースの暗号化を使用して、RIPアップデートを認証できます。

## 例

次に、指定したインターフェイス上でRIPバージョン1と2のパケットを送受信するように、ASAを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/3
ciscoasa(config-if)# rip send version 1 2
ciscoasa(config-if)# rip receive version 1 2
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>rip receive version</b>	特定のインターフェイス上でアップデートを受信するときに受け入れる RIP バージョンを指定します。
<b>router rip</b>	RIP ルーティング プロセスをイネーブルにし、そのプロセスのルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>version</b>	ASA でグローバルに使用される RIP のバージョンを指定します。

# rmdir

既存のディレクトリを削除するには、特権 EXEC モードで **rmdir** コマンドを使用します。

**rmdir** [ / no confirm ] [ disk0:| disk1:| flash: ] path

## 構文の説明

**/noconfirm** (任意) 確認プロンプトを表示しないようにします。

**disk0** : (任意) 非着脱式内部フラッシュメモリを指定し、続けてコロンを入力します。

**disk1** : (任意) 脱着式外部フラッシュメモリカードを指定し、続けてコロンを入力します。

**flash** : (任意) 非着脱式内部フラッシュを指定し、続けてコロンを入力します。ASA 5500 シリーズの適応型セキュリティアプライアンスでは、**flash** キーワードは **disk0** のエイリアスです。

**path** (任意) 削除するディレクトリの絶対または相対パス。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ディレクトリが空でない場合、**rmdir** コマンドは失敗します。

## 例

次に、「test」という名前の既存のディレクトリを削除する例を示します。

```
ciscoasa# rmdir test
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>mkdir</b>	新しいディレクトリを作成します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリを表示します。
<b>show file</b>	ファイルシステムに関する情報を表示します。



## route

指定したインターフェイスにスタティックルートまたはデフォルトルートを入力するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **route** コマンドを使用します。指定されたインターフェイスからルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
route interface_name ip_address netmask gateway_ip [[ metric ] [ track number ] | tunneled ]
no route interface_name ip_address netmask gateway_ip [[ metric ] [ track number ] tunneled ]
```

### 構文の説明

<i>gateway_ip</i>	ゲートウェイルータの IP アドレス（このルートのネクストホップアドレス）を指定します。  (注) トランスペアレントモードでは、 <i>gateway_ip</i> 引数は省略可能です。
<i>interface_name</i>	トラフィックがルーティングされるインターフェイスの名前を指定します。トランスペアレントモードの場合は、ブリッジグループのメンバーインターフェイスの名前を指定します。ブリッジグループでルーテッドモードを使用する場合は、BVI 名を指定します。ルーテッドモードで、不要なトラフィックを「ブラックホール化」するには、 <b>null0</b> インターフェイスを入力します。
<i>ip_address</i>	内部または外部ネットワーク IP アドレスを指定します。
<i>metric</i>	(オプション) このルートのアドミニストレーティブディスタンスを指定します。有効値の範囲は、1 ~ 255 です。デフォルト値は 1 です。
<i>netmask</i>	<i>ip_address</i> に適用するネットワーク マスクを指定します。
<b>tracknumber</b>	(任意) このルートにトラッキング エントリを関連付けます。有効な値は、1 ~ 500 です。  (注) <b>track</b> オプションは、シングル、ルーテッドモードでのみ使用できます。
<b>tunneled</b>	ルートを VPN トラフィックのデフォルト トンネル ゲートウェイとして指定します。

### コマンドデフォルト

*metric* のデフォルトは 1 です。

### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュ レーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

7.2(1) **track number** の値が追加されました。

9.2(1) **null0** インターフェイスオプションが追加されました。

9.7(1) 統合ルーティングおよびブリッジングを使用している場合のルーテッドモードの BVI インターフェイスのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン

インターフェイスに対してデフォルトルートまたはスタティックルートを入力するには、**route** コマンドを使用します。デフォルトルートを入力するには、**ip\_address** および **netmask** を **0.0.0.0** に設定するか、短縮形の **0** を使用します。**route** コマンドを使用して入力されたすべてのルートは、構成の保存時に保存されます。

トンネルトラフィックには、標準のデフォルトルートの他に別のデフォルトルートを1つ定義することができます。**tunneled** オプションを使用してデフォルトルートを作成すると、ASA に着信するトンネルからのトラフィックはすべて、学習したルートまたはスタティックルートを使用してルーティングできない場合、このルートに送信されます。トンネルから出るトラフィックの場合、このルートは、その他の設定または学習されたデフォルトルートをすべて上書きします。

**tunneled** オプションが指定されたデフォルトルートには、次の制限事項が適用されます。

- トンネルルートの出力インターフェイスで、ユニキャスト RPF (**ip verify reverse-path**) を有効にしないでください。トンネルルートの出力インターフェイスで **uRPF** をイネーブルにすると、セッションに障害が発生します。
- セッションでエラーが発生する原因となるため、トンネルルートの出力インターフェイスで **TCP 代行受信** をイネーブルにしないでください。
- VoIP インспекションエンジン (CTIQBE、H.323、GTP、MGCP、RTSP、SIP、SKINNY)、DNS インспекションエンジン、または DCE RPC インспекションエンジンは、**vlan-mapping** オプションまたはトンネルルートでは使用しないでください。**vlan-mapping** 設定によってパケットが間違っテルーティングされる可能性があるため、これらのインспекションエンジンは、**vlan-mapping** 設定を無視します。

**tunneled** オプションを使用して複数のデフォルトルートは定義できません。トンネルトラフィックの ECMP はサポートされていません。

スタティック ルートは、任意のインターフェイスで、ルータの外部に接続されているネットワークにアクセスする場合に作成します。たとえば、次のスタティック **route** コマンドでは、192.168.42.0 ネットワークに向かうすべてのパケットが、ASA によって 192.168.1.5 ルータ経由で送信されます。

```
ciscoasa(config)# route dmz 192.168.42.0 255.255.255.0 192.168.1.5 1
```

各インターフェイスの IP アドレスを入力すると、ASA によって、ルートテーブルに CONNECT ルートが作成されます。**clear route** や **clear configure route** コマンドを使用しても、このエントリは削除されません。

ACL の場合とは異なり、スタティック **null0** ルートではパフォーマンスが低下することはありません。**null0** 設定は、ルーティンググループの防止に使用されます。BGP では、リモートトリガ型ブラックホールルーティングのために **null0** 設定を利用します。

## 例

次に、外部インターフェイスに対して、1つのデフォルト **route** コマンドを指定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# route outside 0 0 209.165.201.1 1
```

次に、ネットワークへのアクセスを提供するスタティック **route** コマンドを追加する例を示します。

```
ciscoasa(config)# route dmz1 10.1.2.0 255.0.0.0 10.1.1.4 1
ciscoasa(config)# route dmz1 10.1.3.0 255.0.0.0 10.1.1.4 1
```

次に、SLA 動作を使用して、外部インターフェイスに対して、10.1.1.1 ゲートウェイへのデフォルトルートをインストールする例を示します。SLA 動作によって、このゲートウェイの可用性がモニターされます。この SLA 動作が失敗した場合は、DMZ インターフェイスのバックアップルートが使用されます。

```
ciscoasa(config)# sla monitor 123
ciscoasa(config-sla-monitor)# type echo protocol ipIcmpEcho 10.1.1.1 interface outside

ciscoasa(config-sla-monitor-echo)# timeout 1000
ciscoasa(config-sla-monitor-echo)# frequency 3
ciscoasa(config)# sla monitor schedule 123 life forever start-time now
ciscoasa(config)# track 1 rtr 123 reachability
ciscoasa(config)# route outside 0.0.0.0 0.0.0.0 10.1.1.1 track 1
ciscoasa(config)# route dmz 0.0.0.0 0.0.0.0 10.2.1.1 254
```

次に、スタティック **null0** ルートを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# route null0 192.168.2.0 255.255.255.0
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure route</b>	スタティックに設定された <b>route</b> コマンドを削除します。

コマンド	説明
<b>clear route</b>	RIP などのダイナミック ルーティング プロトコルを通じて学習されたルートを削除します。
<b>show route</b>	ルート情報を表示します。
<b>show running-config route</b>	設定されているルートを表示します。

# route-map

ルーティングプロトコル間でルートを再配布する条件を定義したり、ポリシールーティングをイネーブルにしたりするには、グローバルコンフィギュレーションモードで `route-map` コマンドを使用し、さらにルートマップコンフィギュレーションモードで `match` コマンドと `set` コマンドを使用します。エントリを削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

**route-map** *name* [ **permit** | **deny** ] [ *sequence number* ]

**no route-map** *name* [ **permit** | **deny** ] [ *sequence number* ]

## 構文の説明

<i>name</i>	ルートマップに意味のある名前を指定します。redistribute ルータ コンフィギュレーションコマンドはこの名前を使用して、このルートマップを参照します。複数のルートマップで同じ名を共有できます。
<i>permit</i>	<p>(オプション) このルートマップの一致基準が満たされた場合、<code>permit</code> キーワードが指定されていると、設定アクションに従ってルートが再配布されます。ポリシールーティングの場合、パケットはポリシーに従ってルーティングされます。</p> <p>一致基準が満たされなかった場合、<code>permit</code> キーワードが指定されていると、同じマップタグを持つ次のルートマップがテストされます。あるルートが、同じ名前を共有するルートマップセットの一致基準のいずれをも満たさない場合、そのセットによる再配布は行われません。</p> <p><code>permit</code> キーワードがデフォルトです。</p>
<i>deny</i>	<p>(オプション) ルートマップの一致基準が満たされた場合でも、<code>deny</code> キーワードが指定されているとルートは再配布されません。ポリシールーティングの場合、パケットはポリシーに従ってルーティングされません。また、同じマップタグ名を共有するルートマップは、これ以上検証されません。パケットがポリシールーティングの対象にならない場合、通常の転送アルゴリズムが使用されます。</p>
<i>sequence-number</i>	(任意) すでに同じ名前を設定されているルートマップリスト内の新しいルートマップの位置を指定する番号。このコマンドの <code>no</code> 形式を指定すると、このルートマップの位置が削除されます。

**コマンドデフォルト** デフォルト設定はありません。

**コマンドモード** 次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュ レーション	・対応	・対応	・対応	・対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ルートを再配布するには、ルートマップを使用します。

あるルーティングプロトコルから別のルーティングプロトコルにルートを再配布する条件を定義するには、`route-map` グローバルコンフィギュレーションコマンドと、`match` および `set` ルートマップコンフィギュレーションコマンドを使用します。`route-map` コマンドごとに、それに関連した `match` および `set` コマンドのリストがあります。`match` コマンドは、一致基準（現在の `route-map` コマンドで再配布が許可される条件）を指定します。`set` コマンドは、`set` 処理（`match` コマンドによって強制される基準が満たされた場合に実行される特定の再配布アクション）を指定します。`no route-map` コマンドはルートマップを削除します。

`match` ルートマップコンフィギュレーションコマンドには、複数の形式があります。`match` コマンドの順序は任意に指定できます。すべての `match` コマンドが満たされないと、`set` コマンドで指定した `set` 処理に従ってルートの再配布が行われません。`match` コマンドの `no` 形式を使用すると、指定した一致基準が削除されます。

ルーティングプロセス間でルートを再配布する方法を詳細に制御する必要がある場合にルートマップを使用します。宛先ルーティングプロトコルは `router` グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して指定します。ソースルーティングプロトコルは `redistribute` ルータコンフィギュレーションコマンドを使用して指定します。ルートマップの設定方法の例については、「例」のセクションを参照してください。

ルートがルートマップを通過するようになるには、ルートマップに複数の要素を持たせることができます。`route-map` コマンドに関連付けられているどの `match` ステートメントとも一致しないルートは無視されます。したがって、そのルートは発信ルートマップ用にアドバタイズされることも、着信ルートマップ用に受け入れられることもありません。一部のデータのみ修正したい場合は、別にルートマップセクションを設定して明示的に一致基準を指定する必要があります。

`sequence-number` 引数を使用した場合の動作は次のとおりです。

1. `route-map name` でエントリが定義されていない場合、`sequence-number` 引数を 10 にしたエントリが作成されます。

2. `route-map name` でエントリが1つしか定義されていない場合、そのエントリが後続の `route-map` コマンドのデフォルトエントリになります。このエントリの `sequence-number` 引数は変わりません。

3. `route-map name` で複数のエントリが定義されている場合、`sequence-number` 引数が必要であることを伝えるエラーメッセージが表示されます。

4. `no route-map name` コマンドが指定されると (`sequence-number` 引数なし)、ルートマップ全体が削除されます。

## 例

次の例は、ホップカウント1でルートをOSPFに再配布する方法を示しています。ASAは、これらのルートをメトリック5、メトリックタイプ1で外部LSAとして再配布します。

```
ciscoasa(config)# route-map 1-to-2 permit
ciscoasa(config-route-map)# match metric 11
ciscoasa(config-route-map)# set metric 5
ciscoasa(config-route-map)# set metric-type type-1
```

次に、メトリック値が設定されたEIGRPプロセス1に10.1.1.0のスタティックルートを再配布する例を示します。

```
ciscoasa (config)# route outside 10.1.1.0 255.255.255.0 192.168.1.1
ciscoasa(config-route-map)# access-list mymap2 line 1 permit 10.1.1.0 255.255.255.0
ciscoasa(config-route-map)# route-map mymap2 permit 10
ciscoasa(config-route-map)# match ip address mymap2
ciscoasa(config-route-map)# router eigrp 1
ciscoasa(config)# redistribute static metric 250 250 1 1 1 route-map
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>redistribute</code>	ルートを1つのルーティングドメインから他のルーティングドメインに再配布します。
<code>route</code>	インターフェイスのスタティックルートまたはデフォルトルートを作成します。
ルータ	指定したプロトコルのルータ コンフィギュレーション モードを開始します。

# route priority high

IS-IS プレフィックスに高いプライオリティを割り当てるには、ルータ ISIS コンフィギュレーションモードで **route priority high** コマンドを使用します。IP プレフィックスプライオリティを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**route priority high tag-value**  
**no route priority high tag-value**

## 構文の説明

*tag-value* 特定のルート タグを持つ IS-IS IP プレフィックスにハイ プライオリティを割り当てます。指定できる範囲は 1 ~ 4294967295 です。

## コマンド デフォルト

IP プレフィックス プライオリティは設定されていません。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
ルータ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

9.6(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

グローバルルーティング テーブルでより高速な処理とインストールを実行するために、**route priority high** コマンドを使用して、より高いプライオリティの IS-IS IP プレフィックスにタグ付けすると、より高速なコンバージェンスを実現できます。たとえば、Voice over IP (VoIP) トラフィックが、その他のタイプのパケットよりも速く更新されるようにするために、VoIP ゲートウェイ アドレスが最初に処理されるようにすることができます。

## 例

次に、**route priority high** コマンドを使用して、IS-IS IP プレフィックスにタグ値 100 を割り当てる例を示します。

```
ciscoasa(config)# router isis
ciscoasa(config-router)# route priority high tag 100
```

## 関連コマンド



# router-alert

IP オプションインスペクションにおいて、パケットヘッダー内でルータアラート IP オプションが存在する場合のアクションを定義するには、パラメータ コンフィギュレーション モードで **router-alert** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**router-alert action { allow | clear }**  
**no router-alert action { allow | clear }**

## 構文の説明

*allow* ルータ アラート IP オプションを含むパケットを許可します。

*clear* ルータアラートオプションをパケットヘッダーから削除してから、パケットを許可します。

## コマンドデフォルト

デフォルトで、IP オプションインスペクションは、ルータアラート IP オプションを含むパケットを許可します。

IP オプションインスペクションポリシーマップで **default** コマンドを使用すると、デフォルト値を変更できます。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
パラメータ コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

8.2(2) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、IP オプションインスペクションポリシーマップで設定できます。

IP オプションインスペクションを設定して、特定の IP オプションを持つどの IP パケットが ASA を通過できるかを制御できます。変更せずにパケットを通過させたり、指定されている IP オプションをクリアしてからパケットを通過させたりできます。

ルータアラート (RTRALT) または IP オプション 20 は、中継ルータに対して、そのルータ宛てのパケットではない場合でもパケットの内容を検査するように指示します。このインスペク

ションは、RSVP を実装している場合に役に立ちます。同様のプロトコルは、パケット配信パス上にあるルータでの比較的複雑な処理を必要とします。

## 例

次に、ポリシーマップにおけるプロトコル違反に対するアクションを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# policy-map type inspect ip-options ip-options_map
ciscoasa(config-pmap)# parameters
ciscoasa(config-pmap-p)# eool action allow
ciscoasa(config-pmap-p)# nop action allow
ciscoasa(config-pmap-p)# router-alert action allow
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>class</b>	ポリシー マップのクラス マップ名を指定します。
<b>class-map type inspect</b>	アプリケーション固有のトラフィックを照合するためのインスペクションクラス マップを作成します。
<b>policy-map</b>	レイヤ 3/4 のポリシー マップを作成します。
<b>show running-config policy-map</b>	現在のポリシーマップコンフィギュレーションをすべて表示します。

# router bgp

ボーダー ゲートウェイ プロトコル (BGP) ルーティング プロセスを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで `router bgp` コマンドを使用します。BGP ルーティング プロセスを削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

**router bgp** *autonomous-system-number*  
**no router bgp** *autonomous-system-number*

## 構文の説明

*autonomous-system-number* 他のBGPルータに対するルータを指定し、同時に渡されるルーティング情報のタグgingをする、自律システムの番号。番号の範囲は1～65535です。

## コマンド デフォルト

デフォルトでは BGP ルーティング プロセスはイネーブルではありません。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	• 対応

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

9.2(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、自律システム間でのルーティング情報のループなしのやり取りが自動的に保証される、分散ルーティング コアを設定できます。

2009年1月まで、企業に割り当てられていた BGP 自律システム番号は、RFC 4271『A Border Gateway Protocol 4 (BGP-4)』に記述された、1～65535の範囲の2オクテットの数値でした。

現在は、自律システム番号の要求の増加に伴い、インターネット割り当て番号局 (IANA) により割り当てられる自律システム番号は65536～4294967295の範囲の4オクテットの番号になります。

RFC 5396『Textual Representation of Autonomous System (AS) Numbers』には、自律システム番号を表す3つの方式が記述されています。シスコでは、次の2つの方式を実装しています。

- **asplain** : 10 進表記方式。2 バイトおよび 4 バイト自律システム番号をその 10 進数値で表します。たとえば、65526 は 2 バイト自律システム番号、234567 は 4 バイト自律システム番号になります。
- **asdot** : 自律システム ドット付き表記。2 バイト自律システム番号は 10 進数で、4 バイト自律システム番号はドット付き表記で表されます。たとえば、65526 は 2 バイト自律システム番号、1.169031 (10 進表記の 234567 をドット付き表記にしたもの) は 4 バイト自律システム番号になります。

自律システム番号を表す 3 つ目の方法については、RFC 5396 を参照してください。

## 例

次の例は、自律システム番号 100 用に BGP プロセスを設定する方法を示しています。

```
ciscoasa(config)# router bgp 100
ciscoasa(config-router)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show route bgp</b>	ルーティング テーブルを表示します。
<b>show bgp summary</b>	すべてのボーダー ゲートウェイ プロトコル (BGP) 接続のステータスを表示します。

# router eigrp

EIGRP ルーティングプロセスを開始し、プロセスのパラメータを設定するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **router eigrp** コマンドを使用します。EIGRP ルーティングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**router eigrp as-number**  
**no router eigrp as-number**

## 構文の説明

*as-number* 他の EIGRP ルータへのルートを識別する自律システム番号。ルーティング情報のタグgingにも使用されます。有効値は 1 ~ 65535 です。

## コマンドデフォルト

EIGRP ルーティングはディセーブルです。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

8.0(2) このコマンドが追加されました。

9.0(1) マルチコンテキストモードはサポートされます。

## 使用上のガイドライン

**router eigrp** コマンドは、EIGRP ルーティングプロセスを作成するか、または既存の EIGRP ルーティングプロセスのルータ コンフィギュレーションモードを開始します。ASA では、単一の EIGRP ルーティングプロセスのみを作成できます。

次のルータ コンフィギュレーションモードコマンドを使用して、EIGRP ルーティングプロセスを設定します。

- **auto-summary** : 自動ルート集約を有効または無効にします。
- **default-information** : デフォルトルート情報の送受信を有効または無効にします。
- **default-metric** : EIGRP ルーティングプロセスに再配布されるルートのデフォルトのメトリックを定義します。

- **distance eigrp** : 内部および外部 EIGRP ルートのアドミニストレーティブ ディスタンスを設定します。
- **distribute-list** : ルーティング更新で送受信されるネットワークをフィルタリングします。
- **eigrp log-neighbor-changes** : ネイバーステートの変更のログギングを有効または無効にします。
- **eigrp log-neighbor-warnings** : ネイバーの警告メッセージのログギングを有効にします。
- **eigrp router-id** : 固定ルータ ID を作成します。
- **eigrp stub** : ASA でスタブ EIGRP ルーティングを設定します。
- **neighbor** : EIGRP ネイバーをスタティックに定義します。
- **network** : EIGRP ルーティングプロセスに参加するネットワークを設定します。
- **passive-interface** : パッシブインターフェイスとして動作するインターフェイスを設定します。
- **redistribute** : 他のルーティングプロセスから EIGRP にルートを再配布します。

次のインターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドを使用して、インターフェイス固有の EIGRP パラメータを設定します。

- **authentication key eigrp** : EIGRP メッセージ認証で使用される認証キーを定義します。
- **authentication mode eigrp** : EIGRP メッセージ認証で使用される認証アルゴリズムを定義します。
- **delay** : インターフェイスの遅延メトリックを設定します。
- **hello-interval eigrp** : EIGRP の hello パケットがインターフェイスから送信される間隔を変更します。
- **hold-time eigrp** : ASA によってアドバタイズされるホールド時間を変更します。
- **split-horizon eigrp** : インターフェイスで EIGRP スプリットホライズンを有効または無効にします。
- **summary-address eigrp** : サマリーアドレスを手動で定義します。

## 例

次に、自律システム番号 100 が付けられた EIGRP ルーティング プロセスのコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
ciscoasa(config)# router eigrp 100
ciscoasa(config-rtr)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure eigrp</b>	実行コンフィギュレーションからEIGRPルータコンフィギュレーションモードコマンドをクリアします。
<b>show running-config router eigrp</b>	実行コンフィギュレーションのEIGRPルータコンフィギュレーションモードコマンドを表示します。

# router-id

固定ルータ ID を使用するには、ルータ コンフィギュレーション モード (OSPFv2 の場合) または IPv6 ルータ コンフィギュレーション モード (OSPFv3 の場合) で **router-id** コマンドを使用します。以前のルータ ID 動作を使用するように OSPF をリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**router-id** *id*  
**no router-id** [*id*]

## 構文の説明

*id* IP アドレス形式でルータ ID を指定します。

## コマンド デフォルト

指定しない場合、ASA 上で最上位の IP アドレスがルータ ID として使用されます。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
ルータ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—
IPv6 ルータ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

8.0(2) このコマンドの処理順序が変更されました。このコマンドは、OSPFv2 構成では、**network** コマンドよりも先に処理されるようになりました。

9.0(1) マルチ コンテキスト モードおよび OSPFv3 がサポートされています。

## 使用上のガイドライン

ASA のデフォルトでは、OSPF コンフィギュレーションにおいて、**network** コマンドによって指定されているインターフェイス上の最上位の IP アドレスが使用されます。最上位の IP アドレスがプライベートアドレスである場合、そのアドレスは **hello** パケットおよびデータベース定義で送信されます。特定のルータ ID を使用するには、**router-id** コマンドを使用して、ルータ ID としてグローバルアドレスを指定します。



ルータ ID は、OSPF ルーティング ドメイン内で一意である必要があります。同じ OSPF ドメイン内の 2 つのルータが同じルータ ID を使用している場合、ルーティングが正しく動作しない可能性があります。

OSPF 構成では、**network** コマンドを入力する前に **router-id** コマンドを入力する必要があります。そうすることで、ASA によって生成されるデフォルトのルータ ID との競合を回避できます。競合がある場合は、次のメッセージが表示されます。

```
ERROR: router-id id in use by ospf process pid
```

競合する ID を入力するには、競合の原因となっている IP アドレスを含む **network** コマンドを削除し、**router-id** コマンドを入力して、**network** コマンドを再入力します。

### クラスタ

レイヤ 2 クラスタリングでは、すべてのユニットで同じルータ ID を受け取る場合、**router-id id** コマンドを設定するか、ルータ ID を空白のままにする必要があります。

### 例

次に、ルータ ID を 192.168.1.1 に設定する例を示します。

```
ciscoasa(config-rtr)# router-id 192.168.1.1
ciscoasa(config-rtr)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>router ospf</b>	ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>show ospf</b>	OSPFv2 ルーティング プロセスに関する一般情報を表示します。

# router-id cluster-pool

レイヤ 3 クラスタリング用のルータ ID のクラスタプールを指定するには、ルータ コンフィギュレーション モード (OSPFv2 の場合) または IPv6 ルータ コンフィギュレーション モード (OSPFv3 の場合) で **router-id cluster-pool** コマンドを使用します。

**router-id cluster-pool hostname | A.B.C.D ip\_pool**

構文の説明	<b>cluster-pool</b>	レイヤ 3 クラスタリングが設定されている場合に IP アドレス プールを設定します。
	<b>hostname   A.B.C.D</b>	この OSPF プロセスの OSPF ルータ ID を指定します。
	<b>ip_pool</b>	IP アドレス プールの名前を指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
ルータ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—
IPv6 ルータ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴 リリース 変更内容

9.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ルータ ID は、クラスタリングの OSPFv2 または OSPFv3 ルーティング ドメイン内で一意である必要があります。同じ OSPFv2 または OSPFv3 ドメイン内の 2 つのルータが同じルータ ID を使用している場合、クラスタリングでのルーティングが正しく動作しない可能性があります。

レイヤ 2 クラスタリングでは、すべてのユニットで同じルータ ID を受け取る場合、**router-id id** コマンドを設定するか、ルータ ID を空白のままにする必要があります。

レイヤ3 クラスターのインターフェイスを設定するときは、インターフェイスのIPアドレスをユニットごとに一意にする必要があります。各ユニットのインターフェイスのIPアドレスが一意になるようにするには、**router-id cluster-pool** コマンドを使用して、OSPFv2 または OSPFv3 用に IP アドレスのローカルプールを設定します。

## 例

次に、OSPFv2 用にレイヤ3 クラスターリングが設定されている場合の IP アドレス プールを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# ip local pool rpool 1.1.1.1-1.1.1.4
ciscoasa(config)# router ospf 1
ciscoasa(config-rtr)# router-id cluster-pool rpool
ciscoasa(config-rtr)# network 17.5.0.0 255.255.0.0 area 1
ciscoasa(config-rtr)# log-adj-changes
```

次に、OSPFv3 用にレイヤ3 クラスターリングが設定されている場合の IP アドレス プールを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# ipv6 router ospf 2
ciscoasa(config-rtr)# router-id cluster-pool rpool
ciscoasa(config-rtr)# interface gigabitEthernet0/0
ciscoasa(config-rtr)# nameif inside
ciscoasa(config-rtr)# security-level 0
ciscoasa(config-rtr)# ip address 17.5.33.1 255.255.0.0 cluster-pool inside_pool
ciscoasa(config-rtr)# ipv6 address 8888::1/64 cluster-pool p6
ciscoasa(config-rtr)# ipv6 nd suppress-ra
ciscoasa(config-rtr)# ipv6 ospf 2 area 0.0.0.0
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
ipv6 router ospf	IPv6 のルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
router ospf	ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
show ipv6 ospf	OSPFv3 ルーティングプロセスに関する一般情報を表示します。
show ospf	OSPFv2 ルーティングプロセスに関する一般情報を表示します。

# router isis

IS-IS ルーティングプロトコルを有効にし、IS-IS プロセスを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **router isis** コマンドを使用します。IS-IS ルーティングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**router isis**  
**no router isis**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

このコマンドは、デフォルトでディセーブルになっています。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

9.6(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、エリアの IS-IS ルーティングをイネーブルするために使用されます。エリアのエリアアドレスおよび ASA のシステム ID を指定するために、適切なネットワークエンティティタイトル (NET) が設定されている必要があります。隣接関係が確立されてダイナミックルーティングが可能になる前に、1 つ以上のインターフェイスでルーティングをイネーブルにする必要があります。IS-IS の設定に使用するコマンドのリストについては、「関連コマンド」の表を参照してください。

## 例

次に、IS-IS ルーティングをイネーブルにする例を示します。

```
ciscoasa# configure terminal
ciscoasa(config)# router isis
ciscoasa(config-router)#
```

## 関連コマンド

# router ospf

OSPF ルーティングプロセスを開始し、プロセスのパラメータを設定するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **router ospf** コマンドを使用します。OSPF ルーティングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**router ospf pid**  
**no router ospf pid**

## 構文の説明

*pid* OSPF ルーティングプロセスの内部的に使用される ID パラメータ。有効な値は、1～65535 です。*pid* は、他のルータの OSPF プロセスの ID と一致する必要はありません。

## コマンドデフォルト

OSPF ルーティングはディセーブルです。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
 ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

9.0(1) マルチコンテキストモードはサポートされます。

## 使用上のガイドライン

**router ospf** コマンドは、ASA 上で実行される OSPF ルーティングプロセスのグローバル コンフィギュレーションコマンドです。**router ospf** コマンドを入力すると、コマンドプロンプトに (config-router)# と表示され、ルータ コンフィギュレーションモードが開始したことが示されます。

**no router ospf** コマンドを使用する場合、必要な情報を指定する場合を除き、オプションの引数を指定する必要はありません。**no router ospf** コマンドは、*pid* によって指定された OSPF ルーティングプロセスを終了します。*pid* は、ASA においてローカルに割り当てます。OSPF ルーティング プロセスごとに固有の値を割り当てる必要があります。

**router ospf** コマンドは、次の OSPF 固有のコマンドとともに、OSPF ルーティングプロセスを設定するために使用されます。

- **area** : 通常の OSPF エリアを設定します。
- **compatible rfc1583** : サマリールートのコスト計算に使用される方法を RFC 1583 に従った方法に戻します。
- **default-information originate** : デフォルトの外部ルートを OSPF ルーティングドメインに生成します。
- **distance** : ルートタイプに基づいて、OSPF ルートアドミニストレーティブディスタンスを定義します。
- **ignore** : ルータがタイプ 6 Multicast OSPF (MOSPF) パケットのリンクステートアドバタイズメント (LSA) を受信した場合の syslog メッセージの送信を抑制します。
- **log-adj-changes** : OSPF ネイバーが起動または停止したときに、ルータが syslog メッセージを送信するように設定します。
- **neighbor** : ネイバールータを指定します。VPN トンネル経由での隣接関係の確立を許可するために使用します。
- **network** : OSPF が実行するインターフェイスと、各インターフェイスに対するエリア ID を定義します。
- **redistribute** : 指定されたパラメータに従って、ルーティングドメイン間でのルートの再配布を設定します。
- **router-id** : 固定ルータ ID を作成します。
- **summary-address** : OSPF の集約アドレスを作成します。
- **timer lsa arrival** : OSPF ネイバーから同一のリンクステートアドバタイズメント (LSA) を受け入れる最小間隔 (ミリ秒) を定義します。
- **timer pacing flood** : フラディングキュー内の LSA の最小更新間隔 (ミリ秒) を定義します。
- **timer pacing lsa-group** : LSA のグループのリフレッシュまたは管理の間隔 (秒) を定義します。
- **timer pacing retransmission** : ネイバー再送信の最小間隔 (ミリ秒) を定義します。
- **timer throttle lsa** : LSA の最初のおカレンスを生成する遅延 (ミリ秒) を定義します。
- **timer throttle spf** : SPF 計算の変更を受信する遅延 (ミリ秒) を定義します。
- **timer nsf wait** : NSF 再起動中のインターフェイス待機間隔を定義します。デフォルト値は 20 秒です。許容範囲は 1 ~ 65535 秒です。

一  
例

次に、OSPF ルーティング プロセス番号 5 のコンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
ciscoasa(config)# router ospf 5  
ciscoasa(config-router)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure router</b>	実行コンフィギュレーションから OSPF ルータ コマンドをクリアします。
<b>show running-config router ospf</b>	実行コンフィギュレーション内の OSPF ルータ コマンドを表示します。

# router rip

RIPルーティングプロセスを開始し、プロセスのパラメータを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **router rip** コマンドを使用します。RIPルーティングプロセスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**router rip**  
**no router rip**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RIP ルーティングはディセーブルです。

## コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**router rip** コマンドは、ASA 上の RIP ルーティングプロセスを設定するためのグローバル コンフィギュレーション コマンドです。ASA では、1 つの RIP プロセスのみ設定できます。**no router rip** コマンドは、RIP ルーティングプロセスを終了し、そのプロセスのすべてのルータ構成を削除します。

**router rip** コマンドを入力すると、ルータ コンフィギュレーション モードであることを示す (config-router)# にコマンドプロンプトが変更されます。

**router rip** コマンドは、次のルータ コンフィギュレーション コマンドとともに、RIP ルーティングプロセスを設定するために使用されます。

- **auto-summary** : ルートの自動集約を有効または無効にします。
- **default-information originate** : デフォルトルートを配布します。
- **distribute-list in** : ネットワークの着信ルーティングアップデートをフィルタリングします。



- **distribute-list out** : ネットワークの発信ルーティングアップデートをフィルタリングします。
- **network** : ルーティングプロセスでインターフェイスを追加または削除します。
- **passive-interface** : 特定のインターフェイスをパッシブモードに設定します。
- **redistribute** : 他のルーティングプロセスから RIP ルーティングプロセスにルートを再配布します。
- **version** : ASA で使用される RIP プロトコルバージョンを設定します。

また、次のコマンドをインターフェイスコンフィギュレーションモードで使用して、インターフェイスごとの RIP プロパティを設定できます。

- **rip authentication key** : 認証キーを設定します。
- **rip authentication mode** : RIP バージョン 2 によって使用される認証のタイプを設定します。
- **rip send version** : インターフェイスから更新を送信するために使用する RIP のバージョンを設定します。グローバルルータ コンフィギュレーション モードでバージョンが設定されている場合は、このコマンドによって上書きされます。
- **rip receive version** : インターフェイスで受け入れる RIP のバージョンを設定します。グローバルルータ コンフィギュレーション モードでバージョンが設定されている場合は、このコマンドによって上書きされます。

トランスペアレント モードでは RIP はサポートされていません。ASA のデフォルトでは、すべての RIP ブロードキャストパケットおよびマルチキャストパケットが拒否されます。これらの RIP メッセージが、トランスペアレントモードで動作する ASA を通過できるようにするには、このトラフィックを許可するアクセスリストエントリを定義する必要があります。たとえば、RIP バージョン 2 トラフィックが ASA を通過できるようにするには、次のようなアクセスリストエントリを作成します。

```
ciscoasa(config)# access-list myriplist extended permit ip any host 224.0.0.9
```

RIP バージョン 1 のブロードキャストを許可するには、次のようなアクセスリストエントリを作成します。

```
ciscoasa(config)# access-list myriplist extended permit udp any any eq rip
```

**access-group** コマンドを使用して、それらのアクセスリストエントリを適切なインターフェイスに適用します。

ASA では、RIP ルーティングと OSPF ルーティングの両方を同時に有効にできます。

## 例

次に、OSPF ルーティング プロセス番号 5 のコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
ciscoasa(config)# router rip
```

```
ciscoasa(config-rtr)# network 10.0.0.0  
ciscoasa(config-rtr)# version 2
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear configure router rip</b>	実行コンフィギュレーションからRIPルータコマンドをクリアします。
<b>show running-config router rip</b>	実行コンフィギュレーション内のRIPルータコマンドを表示します。

# rtp-conformance

ピンホールを通過する RTP パケットが H.323 および SIP プロトコルに準拠しているかチェックするには、パラメータ コンフィギュレーション モードで **rtp-conformance** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rtp-conformance** [ **enforce-payloadtype** ]

**no rtp-conformance** [ **enforce-payloadtype** ]

## 構文の説明

*enforce-payloadtype* シグナリング交換に基づいて、ペイロードタイプをオーディオまたはビデオであると指定します。

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
パラメータ コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

## 例

次に、ピンホールを通過する RTP パケットが H.323 コールのプロトコルに準拠しているかどうかをチェックする例を示します。

```
ciscoasa(config)# policy-map type inspect h323 h323_map
ciscoasa(config-pmap)# parameters
ciscoasa(config-pmap-p)# rtp-conformance
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>class</b>	ポリシー マップのクラス マップ名を指定します。
<b>class-map type inspect</b>	アプリケーション固有のトラフィックを照合するためのインスペクションクラス マップを作成します。

コマンド	説明
debug rtp	H.323 および SIP インспекションに関連する RTP パケットのデバッグ情報およびエラー メッセージを表示します。
policy-map	レイヤ 3/4 のポリシー マップを作成します。
show running-config policy-map	現在のポリシー マップ コンフィギュレーションをすべて表示します。

## rtp-min-port rtp-max-port (廃止予定)

電話プロキシ機能の `rtp-min-port` および `rtp-max-port` の制限を設定するには、電話プロキシコンフィギュレーションモードで `rtp-min-port rtp-max-port` コマンドを使用します。電話プロキシコンフィギュレーションから制限を削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
rtp-min-port port1 rtp-maxport port2
no rtp-min-port port1 rtp-maxport port2
```

### 構文の説明

`port1` メディアターミネーションポイントの RTP ポート範囲の最小値を指定します。`port1` は、1024 ~ 16384 の値を指定できます。

`port2` メディアターミネーションポイントの RTP ポート範囲の最大値を指定します。`port2` は、32767 ~ 65535 の値を指定できます。

### コマンドデフォルト

デフォルトでは、`rtp-min-port` キーワードの `port1` の値は 16384、`rtp-max-port` キーワードの `port2` の値は 32767 です。

### コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
Phone-Proxy コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

### コマンド履歴

リリース 変更内容

8.2(1) コマンドが追加されました。

9.4(1) このコマンドは、すべての `phone-proxy` モードコマンドとともに廃止されました。

### 使用上のガイドライン

電話プロキシでサポートするコール数の規模を調整する必要がある場合は、メディアターミネーションポイントの RTP ポート範囲を設定します。

### 例

次に、`rtp-min-port` コマンドを使用して、メディア接続に使用するポートを指定する例を示します。

```
ciscoasa
```

**rtp-min-port rtp-max-port** (廃止予定)

```
(config-phone-proxy)#  
rtp-min-port 2001 rtp-maxport 32770
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>phone-proxy</b>	Phone Proxy インスタンスを設定します。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。